

京における路地空間の把握

大阪工業大学大学院 学生員 ○高岡光太郎
大阪工業大学 正会員 吉川 眞
大阪工業大学 正会員 田中 一成

1. はじめに

京都の市街地には、碁盤目状の大路小路が形成されていることから、街区の間を通り抜けできる狭い街路が数多く存在する。これを路地と書いて「ろーじ」と呼んでいる。近年京都では、定番コースとなっている社寺観光だけでなく、伝統的な京町家を散策する「まちなか観光」が脚光を浴びるなか、この「路地」や「路地裏」の散策が注目されている。

京の路地はもともと平安時代末期頃に人びとの暮らしの利便性やコミュニティ形成のために作られたものである。しかし、現存の路地は平安京の町割から少しずつ変化して形成されてきたため、ほとんどの路地は明治期以降のものである。京の路地空間は石畳や町家など、その雰囲気に関心があり、多くの人に注目されている。そこで、本研究では京の路地空間に着目することとした。

2. 研究の目的と方法

近年、路地は歴史・文化を色濃く残す存在として見出されるとともに、路地における防災性の欠如などが懸念されている。路地はおもに幅員が4m未満であるため、消防車などの緊急車両が通行できないことが多く、防災面・安全面の機能をもたせるためには拡張が最も効果的であると考えられる。しかし、それでは路地そのものが持つ「路地らしさ」を失う可能性があるため、路地らしさを維持しながら問題点を改善することが重要となる。そこで、京都市の路地空間にある「路地らしさ」について定量化することを本研究の目的とした。研究対象地には、京都市の中心市街地に位置する上京区、中京区、下京区、東山区の4区とした。また、この4区では(財)京都市景観・まちづくりセンターが、維持・保全のために現存する京町家について調査を行っており、路地と町家は密接に関係していると考えたため選定した。

路地は建物と建物の間を縫うように形成しており、典型的な路地を抽出できると考えた。抽出方法は、地図上に路地の位置を示す白地図を、国土地理院が発行している基盤地図情報上に幾何補正してGIS上に路地を定義する。抽出した路地一つ一つに属性データを付与することで、基盤となるデータベース構築を行っていく。これにより、対象地内における路地の分布状況と地区ごとの特徴を見出すことができる。

3. 路地調査データ

本研究のベースに、京都市が平成18年度に同対象地域で行った「京都を中心とした歴史都市の総合魅力向上調査」の調査データ(以下、路地調査データという)を使用した。提供データには、紙ベースの白地図上にIDが記された路地の位置図とデータからなる(表1)。各路地の属性データがExcel形式でまとめられており、研究用データベースの構築では基盤地図情報を元にして路地を定位している。定位した路地には属性データを付加することで、空間検索ができるようにした。

表1 調査データの一例

調査属性							記入者名				学区	認定道路	美観地区
調査日	調査グループ名	ゼンリン(区名)	ゼンリン(図番号)	ゼンリン(左頁右頁)住宅地図	白地図名	白地図別ID	シートA	シートB	シートC	ケーススタディ地区			
11/2 A	下京区		8 左	五条大橋	1 園田	小川 田中					12	2	0
12/10 A	下京区		21 右	中河原	1 園田	ツジモト 金川					19	1	0
12/14 D	下京区		22 左	梅小路	1 平井	岩橋 新谷					19	1	0
11/9 B	上京区		3 左	衣笠山	1 平居	平居 熊谷					5	1	0
12/22 D	上京区		13 右	花園	1 竹内	河合 本間					9	1	0
12/19 C	中京区		10 右	山ノ内	1 園田	新谷 田中					8	1	0
12/5 C	中京区		12 左	王生	1 吉田	金川 西村					4	3	0
12/6 A	中京区		31 左	西京極	1 新谷	フジサワ 田中					7	1	0
12/15 B	中京区		31 左	島原	1 福井	園田 金川					7	1	0
12/18 A	東山区		2 右	岡崎	1 藤沢	新谷 金川	a				2	2	0
12/17 B	東山区		8 右	清水寺	1 金川	岩橋 辻本					5	2	0

キーワード 空間情報技術, 京都, 路地空間, 典型的な路地

連絡先 〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮5丁目16番1号 TEL 06-6954-4418

4. 典型的路地の定義

典型的路地を抽出するため、魅力要素を定義する。京都市では景観指標として、町家の有無、歴史性の有無、保全のための地域指定、伝統産業工房または石畳舗装の有無の4つ要素を定めている。この景観指標に伝統産業工房と石畳舗装を個別の要素に分け、路地形態を足した6つの要素を魅力要素として定義した。次に、路地の基本構成について検討し、視空間に占める面積（見えの面積）の大きい舗装面と建築物の2つが路地を構成する基本的な要素ではないかと考えた（図1）。路面要素にはアスファルト、石畳、砂利、土、コンクリート、その他、の6種類、建物要素には町屋、町屋でない、の2種類がある。この2つの要素を組み合わせの中から該当する組み合わせの路地の数が最も多いのを典型的路地と仮定し、各区の典型的路地を抽出した。

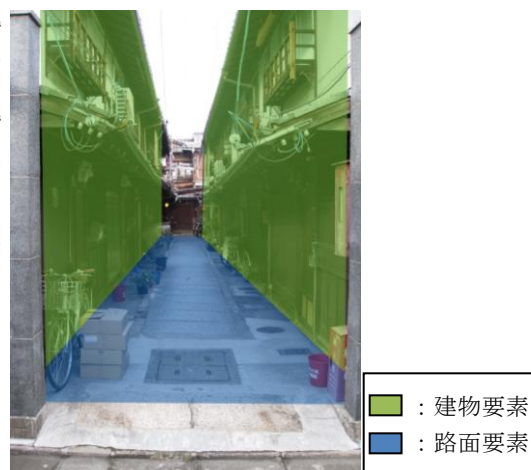


図1 路地の基本構成

5. 典型的路地の把握

路地調査データを用い、典型的路地の把握を行った。建物要素と路面要素とで組み合わせを集計した結果、図2のようになった。これらの結果より、典型的路地は、アスファルト舗装された道に町家が混在する路地と定義された。このような結果になった原因として、高度経済成長を時代のモータリゼーションに伴い、一方、アスファルト舗装の整備が影響していると考えられる。町家の減少については、日本の生活環境が和風から洋風へと変化していったことが影響していると考えられる。

次に、データベース上で把握した路地について、その現状把握のため現地調査を行った上京区の路地は、データベース上には路面要素が石畳で、町家のある路地と定義されているのに対し、実際は路地全体の半分も満たない面積にしか石畳は敷かれておらず、町家も路地沿いに面する建物総件数22件に対してたったの3軒しかないという現状が確認された（図3）。これは、京都市が行った調査方法に問題があり、舗装路面の決め方に他の路地との共通性が見られないところや、町家が1軒でも存在すれば「町家有り」という有無情報でデータを取得していることが、データと現地状況との誤差を生んでいると考えられる。

	町家あり	町家なし
アスファルト	267	190
石畳	17	26
砂利	15	19
土	7	8
コンクリート	112	176
その他	1	0

上京区

	町家あり	町家なし
アスファルト	271	318
石畳	49	28
砂利	21	44
土	4	4
コンクリート	44	62
その他	3	3

中京区

	町家あり	町家なし
アスファルト	260	214
石畳	65	25
砂利	30	30
土	9	15
コンクリート	102	67
その他	8	2

下京区

	町家あり	町家なし
アスファルト	148	283
石畳	60	32
砂利	12	32
土	1	11
コンクリート	87	134
その他	3	2

東山区

図2 各区の典型的な路地



図3 上京区の路地

6. おわりに

本研究では、GIS上で京の路地データベースを構築することで上京区、中京区、下京区、東山区における路地の分布状況を把握した。くわえて、各区の典型的路地を見出すことができた。今後の課題としては、把握した典型的路地について魅力要素の重み付けを行い、定量化することである。定量化により京都における路地の特徴を把握し、京都独特の都市構造の一部である路地を維持・保全について展開していくことを考えている。

参考文献

・京都市・大津市・宇治市三都市協議会（2007）：「京都を中心とした歴史都市の総合的魅力向上調査に係る歴史都市の美しい細街路の維持・保全のための調査研究報告書」, 国土交通省 住宅局。